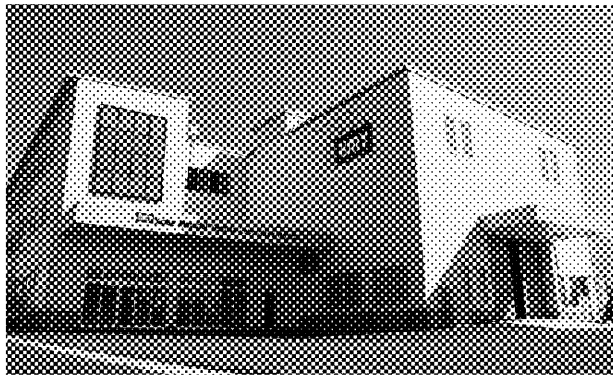


発電所部品損傷解析を強化

神戸工試 提携先人材受け入れ

【神戸】神戸工業試験場（神戸市兵庫区、鶴井昌徹社長）は、2026年に発電所の部品損傷解析事業を強化するため、10月に社外から人員を受け入れる。加えて約1億円を投じて茨城事業所（茨城県日立市）を11月に改修する。競合他社が減少する一方、既設発電所の運転期間が延びており、需要が見込めると判断した。同事業の成長により、26年12月期の売上高は24年12月期比30・4%増の60億円を目指す。



改修する茨城事業所

強化するのは、発電所
の定期点検などでパ
ーツ交換の判断材料と
する
ため、配管や容器
などの損傷を定量的に
評価するための事業。

配管などのサンプル採取サイズを小さくし、発電所が操業状態のままで定期検査を行う「ミニチュア試験」も手がけている。

同事業の強化に向け、提携先のクリアライズ（同ひたちなか市）とこのほど協定を締結。クリアライズの社員10人が神戸工業試験場に10月から出向する。

装。電子顕微鏡などを新たに導入するほか、刺激性が強いナイターやアセトンなどの薬品を使用できるように耐薬品性の床にする。

一方、茨城事業所はミニチュア試験の拠点であり、改修によって2階部分を大幅に改

原子力発電はベースロード電源として、火力発電は再生可能エネルギーの発電量の変動を補完する調整電源として重要な位置付けを担っているが、東日本大震災や地球温暖化問題などを背景に発電所の新設が停滞している。そのため既設発電所を長期にわたって利用し続ける必要性が生じており、損傷解析のニーズが今後高まると同社はみている。